

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第116期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 合同製鐵株式会社

【英訳名】 Godo Steel,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 内 田 裕 之

【本店の所在の場所】 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号

【電話番号】 (06)6343-7600(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 加 藤 敬 一 郎

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号

【電話番号】 (06)6343-7600(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 加 藤 敬 一 郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第115期 第2四半期 連結累計期間	第116期 第2四半期 連結累計期間	第115期
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(百万円)	71,837	96,043	152,785
経常利益又は経常損失()	(百万円)	5,013	844	7,490
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()	(百万円)	3,941	708	4,987
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	4,517	913	7,522
純資産額	(百万円)	98,563	99,115	100,635
総資産額	(百万円)	200,191	214,499	210,877
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失()	(円)	269.44	48.42	340.97
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	49.0	46.0	47.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	9,179	111	6,811
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,350	2,188	5,518
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	3,779	1,067	1,416
現金及び現金同等物 の四半期末(期末)残高	(百万円)	17,620	13,440	14,449

回次		第115期 第2四半期 連結会計期間	第116期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失()	(円)	90.80	54.70

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 3 はマイナスを示しております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書（第115期有価証券報告書）に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当上半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う緊急事態宣言の延長・再発令による個人消費活動の回復の遅れ等から、景気の停滞感が一層強まりましたが、足下では、新型コロナウイルスに対するワクチン接種の進展に伴い、段階的な経済活動の再開による持ち直しの動きもみられるようになりました。

普通鋼電炉業界におきましても、国内需要は、老朽化した社会資本や度重なる自然災害への対応など、土木分野は概ね堅調に推移してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による国内外での混乱が継続するなか、建築分野は計画案件の延期・中止により、漸減傾向を余儀なくされました。

一方、中国をはじめとしたアジア諸国の旺盛な鉄鋼需要を背景に、鉄スクラップ価格が騰勢を強めるとともに、世界的な脱炭素化への動きを睨んで高炉原料の代替となる上級品を中心とした鉄スクラップの調達が加速するなど、取り巻くマーケット環境は一層厳しくなっております。

こうしたなか、当社グループにおきましては、全国に複数の製造拠点をもち事業所体制の下、販売、購買環境や生産条件などの変化を迅速に捉えながら、需要見合いの生産に徹することで再生産可能な販売価格の実現に努めてまいりました。

その結果、当上半期の連結業績につきましては、主原料である鉄スクラップなどの高騰に伴う販売価格の値上げ等により、連結売上高は960億43百万円と前年同四半期比242億5百万円の増収となりましたが、主原料等の急騰に販売価格の値上げが追い付かなかったこと等により、営業損益は前年同四半期比56億2百万円減益の18億49百万円の損失となり、経常損益は前年同四半期比58億58百万円減益の8億44百万円の損失、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同四半期比46億49百万円減益の7億8百万円の損失となりました。

各セグメント別の業績の概況は以下のとおりであります。

< 鉄鋼事業 >

当セグメントにおける当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比237億45百万円増収の890億62百万円、経常損益は前年同四半期比58億23百万円減益の8億35百万円の損失計上となりました。

< 農業資材事業 >

当セグメントにおける当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比3億87百万円増収の55億6百万円、経常損益は前年同四半期比61百万円増益の12百万円の利益計上となりました。

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金の増加（21億30百万円）や棚卸資産の増加（29億93百万円）等により、前期末（2,108億77百万円）から36億22百万円増加し、2,144億99百万円となりました。

負債につきましては、支払手形及び買掛金の増加（33億23百万円）や長期借入金の増加（19億84百万円）等により、前期末（1,102億41百万円）から51億42百万円増加し、1,153億84百万円となりました。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上（7億8百万円）や配当金の支払（5億85百万円）等により、前期末（1,006億35百万円）から15億19百万円減少し、991億15百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前期末の47.6%から46.0%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前期末(144億49百万円)より10億8百万円減少し、134億40百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費24億91百万円及び仕入債務の増加額30億95百万円等の収入に対し、税金等調整前四半期純損失10億47百万円、売上債権の増加額21億30百万円及び棚卸資産の増加額29億93百万円等の支出により、1億11百万円の収入(前年同四半期は91億79百万円の収入)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得による支出24億94百万円等により、21億88百万円の支出(前年同四半期は23億50百万円の支出)となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入57億76百万円及び長期借入金の返済による支出40億65百万円等により、10億67百万円の収入(前年同四半期は37億79百万円の支出)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費は214百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	39,400,000
計	39,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,145,211	17,145,211	東京証券取引所 (第一部上場)	完全議決権株式 単元株式数は100株でありま す。
計	17,145,211	17,145,211	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年9月30日	-	17,145,211	-	34,896	-	9,876

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
日本製鉄(株)	東京都千代田区丸の内2-6-1	2,566	17.5
日本マスタートラスト信託銀行 (株)(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,132	7.7
三井物産(株) (常任代理人 (株)日本カストディ 銀行)	東京都千代田区大手町1-2-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	730	5.0
合鐵取引先持株会	大阪市北区堂島浜2-2-8	637	4.4
共英製鋼(株)	大阪市北区堂島浜1-4-16	514	3.5
(株)メタルワン	東京都千代田区丸の内2-7-2	339	2.3
(株)みずほ銀行 (常任代理人 (株)日本カストディ 銀行)	東京都千代田区大手町1-5-5 (東京都中央区晴海1-8-12)	327	2.2
(株)日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	299	2.0
東京鐵鋼(株)	東京都千代田区富士見2-7-2	268	1.8
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エ ヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300,BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿6-27-30)	244	1.7
計	-	7,061	48.3

- (注) 1 日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)及び(株)日本カストディ銀行(信託口)の持株のすべては、信託業務に係る株式であります。
- 2 上記のほか、当社保有の自己株式2,517千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,517,500	-	単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,569,500	145,695	単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 58,211	-	-
発行済株式総数	17,145,211	-	-
総株主の議決権	-	145,695	-

(注) 上記「単元未満株式」の「株式数(株)」欄には、自己株式72株が含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 当社	大阪市北区堂島浜2-2-8	2,517,500	-	2,517,500	14.68
計		2,517,500	-	2,517,500	14.68

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,449	13,440
受取手形及び売掛金	44,237	46,368
棚卸資産	36,725	39,718
その他	1,508	1,135
流動資産合計	96,920	100,663
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,170	13,026
機械装置及び運搬具(純額)	18,571	18,679
土地	53,274	53,100
その他(純額)	2,245	2,307
有形固定資産合計	87,261	87,113
無形固定資産		
のれん	3,702	3,471
その他	739	685
無形固定資産合計	4,442	4,156
投資その他の資産		
投資有価証券	18,291	18,078
その他	4,027	4,552
貸倒引当金	65	65
投資その他の資産合計	22,252	22,565
固定資産合計	113,956	113,835
資産合計	210,877	214,499
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,665	28,989
短期借入金	38,100	37,890
1年内償還予定の社債	120	120
未払法人税等	430	328
賞与引当金	1,771	1,577
環境対策引当金	83	62
その他	7,616	7,992
流動負債合計	73,787	76,961
固定負債		
社債	330	270
長期借入金	22,863	24,847
役員退職慰労引当金	121	113
環境対策引当金	20	-
退職給付に係る負債	5,435	5,517
その他	7,683	7,673
固定負債合計	36,454	38,422
負債合計	110,241	115,384

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,896	34,896
資本剰余金	12,430	12,430
利益剰余金	50,458	49,154
自己株式	4,715	4,716
株主資本合計	93,070	91,765
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,500	2,241
繰延ヘッジ損益	3	0
土地再評価差額金	4,503	4,502
為替換算調整勘定	10	33
退職給付に係る調整累計額	216	199
その他の包括利益累計額合計	7,213	6,978
非支配株主持分	351	371
純資産合計	100,635	99,115
負債純資産合計	210,877	214,499

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	71,837	96,043
売上原価	58,716	87,883
売上総利益	13,121	8,160
販売費及び一般管理費	9,369	10,010
営業利益又は営業損失()	3,752	1,849
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	256	198
受取賃貸料	351	349
持分法による投資利益	715	597
その他	280	126
営業外収益合計	1,604	1,273
営業外費用		
支払利息	177	173
固定資産賃貸費用	79	53
その他	87	41
営業外費用合計	343	268
経常利益又は経常損失()	5,013	844
特別利益		
固定資産売却益	-	186
特別利益合計	-	186
特別損失		
固定資産除却損	156	315
投資有価証券売却損	-	73
特別損失合計	156	388
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	4,857	1,047
法人税等	894	369
四半期純利益又は四半期純損失()	3,962	677
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	30
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	3,941	708

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	3,962	677
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	570	259
繰延ヘッジ損益	0	2
為替換算調整勘定	21	43
退職給付に係る調整額	6	17
その他の包括利益合計	554	235
四半期包括利益	4,517	913
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,495	943
非支配株主に係る四半期包括利益	21	30

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	4,857	1,047
減価償却費	2,639	2,491
のれん償却額	231	231
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
受取利息及び受取配当金	256	199
支払利息	177	173
受取保険金	5	12
投資有価証券売却損益(は益)	-	73
持分法による投資損益(は益)	715	597
固定資産売却損益(は益)	4	188
固定資産除却損	156	315
売上債権の増減額(は増加)	5,319	2,130
棚卸資産の増減額(は増加)	792	2,993
仕入債務の増減額(は減少)	2,382	3,095
その他	913	914
小計	9,896	125
利息及び配当金の受取額	585	492
利息の支払額	174	173
法人税等の支払額	1,186	345
保険金の受取額	57	12
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,179	111
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	2,232	2,494
有形及び無形固定資産の売却による収入	14	361
投資有価証券の取得による支出	3	4
投資有価証券の売却による収入	0	183
関係会社株式の取得による支出	-	60
その他	128	174
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,350	2,188
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	706	63
長期借入れによる収入	1,040	5,776
長期借入金の返済による支出	4,095	4,065
社債の償還による支出	60	60
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	1,316	585
非支配株主への配当金の支払額	9	9
その他	43	51
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,779	1,067
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,048	1,008
現金及び現金同等物の期首残高	14,572	14,449
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,620	13,440

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりであります。

(1) 代理人取引に係る収益認識

一部の連結子会社に係る収益について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。

(2) 収益認識時点の変更

一部の連結子会社は、従来は出荷基準により収益を認識しておりましたが、第1四半期連結累計期間より、契約条件等に基づき納品日に収益を認識する方法に変更しております。

(3) 顧客に支払う対価

当社は、従来は売上高から控除しておりました販売促進費等の一部を、販売費及び一般管理費に計上しております。一方で、一部の連結子会社は販売費及び一般管理費に計上しておりました販売促進費等の一部を、売上高から控除しております。

(4) 有償受給取引

一部の連結子会社は、有償受給取引に係る売上高と売上原価を連結損益計算書上、総額表示しておりましたが、当該取引の加工費等のみを売上高に純額表示しております。

(5) 売上割引

一部の連結子会社は、従来、営業外費用に計上しておりました売上割引を、売上高から控除しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は499百万円減少し、売上原価は398百万円減少し、販売費及び一般管理費は50百万円減少し、営業損益は50百万円減少し、営業外費用は56百万円減少し、経常損益及び税金等調整前四半期純損益はそれぞれ5百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は10百万円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(四半期連結貸借対照表関係)

棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
商品及び製品(半製品を含む。)	21,561百万円	24,317百万円
仕掛品	324	334
原材料及び貯蔵品	14,839	15,066

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
販売品運賃及び荷役等諸掛	4,202百万円	4,778百万円
給料手当	1,158	1,250
賞与引当金繰入額	573	508
退職給付費用	70	45

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金勘定	17,620百万円	13,440百万円
現金及び現金同等物	17,620	13,440

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年4月28日 取締役会	普通株式	1,316	90.00	2020年3月31日	2020年6月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
 末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月4日 取締役会	普通株式	804	55.00	2020年9月30日	2020年12月1日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年4月28日 取締役会	普通株式	585	40.00	2021年3月31日	2021年6月8日	利益剰余金

2. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	鉄鋼事業	農業資材 事業	計				
売上高	65,316	5,118	70,434	1,539	71,974	136	71,837
セグメント利益 又は損失()	4,987	48	4,939	107	5,046	33	5,013

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、碎石・砕砂事業等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	鉄鋼事業	農業資材 事業	計				
売上高	89,062	5,506	94,568	1,641	96,209	165	96,043
セグメント利益 又は損失()	835	12	822	87	735	109	844

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、碎石・砕砂事業等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	269円44銭	48円42銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()	3,941百万円	708百万円
普通株主に帰属しない金額	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	3,941百万円	708百万円
普通株式の期中平均株式数	14,628,664株	14,627,927株

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

合同製鐵株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅野 豊

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小松野 悟

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている合同製鐵株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、合同製鐵株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。